

171-0014東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

AA

日本ニューズレター No.101

常任理事会はなぜクローズドか？

ということをおある地域評議員より分ち合う機会をいただいた。最初、「クローズド」ということを「1987年版のAAサービス・マニュアルp58「集会の構成」に記してある（多くの地域では「集会」をAAメンバーだけが出席できる「クローズド」の会と考えている）ということを単純に想像した。さらに、最近発刊された「01-02年版のAAサービス・マニュアルp62「構成」を読んでみた。（代議員、地区委員、それに地域委員会役員が集会を構成します。AAメンバーは誰でも出席でき、多くの地域ではAAメンバーの集会への出席が勧められています、これはゼネラル・サービスへの積極的な参加を奨励するためです）と書かれてあった。そして、実際に地域委員会に参加し、このテーマについて話しを聞いてみた。それはAAの伝統5：「いま苦しんでいるアルコールクにメッセージを運ぶ」という私たちの責任であり、特権でもある意味からの「クローズドなのか？」という問いではないことがわかった。それは、「なぜ常任理事会はオブザーバーの参加を認めていないのか？」ということだった。

AAの回復ミーティングでも「女性だけ」「若者だけ」が参加できる「ダブル・クローズド」という特別なミーティングがある。つまりは、AAメンバーなら誰でも参加できるのがAAなのだから、ダブル・クローズド的要素をもった「常任理事会の運営」には疑問を感じるというのが率直な意見であることがわかった。さらに、その場の意見は、「議事録が簡潔書きすぎて話しの内容がわからない」「議事録が話し合った内容の全てを記載していないのではないのか？」「都合の悪いことは知らせていないのではないのか？」「グループが困ることを一方的に決められたら困る」。だから、オブザーバーの参加が重要なのだ！ というのが大方の意見だった。

ちょっと脱線するが、「オブザーバーの意」について、「国立国語研究所が中間発表として示した外来語（日本にない概念なので）とその言い換え語」が新聞で紹介されていた。「オブザーバー」の言い換え語は、「陪席者」「監視員」と説明され、政治的な意味合いが濃いような感じがする。さらに、広辞苑は、「観察者：会議などで発言権はあっても議決権のない人。または傍聴人。」と書かれてある。どちらもあまりよいイメージではない。でも、私が地域委員会で聞いた地区委員の発言も「不信心」から生まれた疑問ではないのではないだろうか？

今年6月に香港で開催された「アジア・オセアニア・サービスミーティング」で、ゲストメンバー（GSO）にこの「常任理事会はなぜクローズドなのか？」という質問を試してみた。ゲストメンバー（GSO）の意見はこうだった。

むかしアメリカ議会で、政治家が何をしでかすかわからないから監視しなければならない！ という歴史があった。AAは「霊的原理」を基礎としているので、政治的にならないことは重要です。

アメリカ・カナダ常任理事会は、単純に希望する全オブザーバーの席を用意できないからです。

一部のオブザーバーの出席は、スペシャル（特別）なオブザーバーをつくってしまうからです
ということだった。さらに、「日本では評議会憲章はないのですか？」と聞かれた。

私は、ようやくに評議会で作成の勧告がされ、「評議会憲章草案作成小委員会」を編成し、草案がAAメンバーに送られようとしているところです、と応えた。

日本のAAが10年を迎える1994年、AA日本ニューズレター 44に、AAJSO発足のころを顧みてという記事が載っている。その概略は、全国的な選挙で委員が選出され、新しいオフィス運営委員会が発足した機会にJSOの発足当時を顧みる内容だ。（1975年に十数人の仲間始めたメッセージの言葉すら知らずに「ただただ自分たちに仲間が必要だ！自分たちの飲まないで生きている喜びを分ち合いたいという衝動にかられての行動」の延長が自然発生的にサービスの機能的なものを作り上げていくことになった。それは、組織と言っているものではないため、帳簿を保管しているところが事務所で、お金を保管している人が会計係。印刷物の保管場所もなく、自分たちのカバンが倉庫。新しい仲間になりたい人たちもどこへいったらよいのかわからないということで、1981年にオフィスがスタートした。その時のオフィス幹事は自らが任命したAAメンバーと、そのAAメンバーに口説き落とされたノンアルコールクで構成されていた。

どうでしょう？12の伝統：伝統2に書かれてある経験と同じように、何もわからずに「ただただ自分たちに仲間が必要だ！自分たちの飲まないで生きている喜びを分ち合いたいという衝動にかられての行動」は、ごく自然にAAの霊的原理に合致した行動となっているのがわかります。さらに、この先人たちは、サービス・マニュアルを唯一の頼りにしたと書かれています。そして、代議員の登録制度、AA全体の方針をグループの代表者が一同に会する「代議員大会」で決めていくこと。その代議員大会で地区、地区委員会制度、関東サービス常任委員が決められた。民主主義とは途方もなく時間のかかることでした。アメリカのGSOからは大きな敬意とよるこびが表され、日本のAAは独立自立的AAとして、オフィスも日本のGSOとして認められたのです」と紹介されています。

AAが20年を迎えた時、「全国代議員集会」で「評議会構想」が草案され、全国代議員によって「全体サービス評議会」の設立が承認された。その場にいた当時のアメリカ・カナダ地方常任理事、GSOゼラルル・マネージャーの方々は、日本AAのハイライトと賛辞してくれた。昨年、その元GSOゼラルル・マネージャーと会う機会を得た。彼は、熱っぽくその時の様子を話し、自分がその場に参加できた幸運をとてよるこんでいた。私自身も、この「評議会構想」草案作りのメンバーだった。今にして思えば、その時に「評議会憲章」を一緒に草案しなかつたことを反省しなければならないと感じている。

AAが10歳になったとき、私たちの先人は、AAの第三ステップともいふべき、機構を決定した。その行動は、一

部のサービスリーダーが全体サービスを担う限界を感じ、「グループの良心」に委ねる必要がその時のAAにあったからだと思う。一つの集合体が一回り大きくなると、必ず混乱が起こる。AAとて例外ではないのだろう、また一回り大きく成長した20歳のときにAAの一体性は、評議会機構を作り、全体サービスの責任を奉仕を任せられたしもべに決定してもらおう、より確かな「評議会機構」を承認した。迎える30歳には、「評議会憲章・常任理事会準則・J S Oの法人化」を完成させることができるだろうと思っている。

ビル・Wは、AAの12の概念3で、「これらの憲章は、AA全体のために行動する評議会の責任を広い意味で定義している。私たちは常に『信頼』をスローガンに進むべきである。そうでなければ指導者はいなくなるであろう。」と言っている。

私たちAAメンバーのサービス活動は「霊的原理」に基づいているものと確信します。伝統2「われわれのグループの目的のための最終的権威はただ一つ、グループの良心の中に自分を現される愛なる神である。われわれのリーダーは奉仕を任せられたしもべにすぎず、彼らは決して支配しない」ということを信頼していこうというのが私個人の最終的な結論です。グループは、サービス代表者を選挙で選ぶことで責任を果たしています。これは、究極の権威であり、オブザーバーなどでは絶対できない全体サービスの参加です。選ばれたサービスリーダーは、個人的な自我を捨て、「奉仕をまかせられたしもべ」として、グループから委託されたサービスのみに限定し、役割を実行していきます。仮に、サービスリーダーが間違った行動をしても、AAは輪番制という方法が解決してくれます。また、その苦い経験は、AAの財産として残るのです。

きっと、「こんなことを分ち合いたいのではない！ オブザーバーの参加を認めるのかどうか？」を聞いているんだ！！」と言っている声が聞こえてきます。その答は、私にもわかりません。たぶん、全国のAAグループの良心がそう望むのであれば、「評議会」が決定することになるのだと思います。けども、もしそうなったら、少しの心配はあります。全体サービスの役割をするメンバーが原状で圧倒的に少ないことです。AAの幼年期に、この地域では、「インターグループ代表者会議」というものを開いて、地域サービスのビジネスを話しあっていた時期があります。せっかくまとまった方針も、翌月の会議ではひっくり返ることが度々でした。それは、グループの代表者が決定権を行使できず、グループに持ち帰って、その方針決定を伝えると、「なんで勝手に決めてきたんだ！」ということで、ふりだしに戻り、なかなか結論が出ませんでした。この苦い経験から、「グループ代議員」を選出し、その「決定権」をお任せすることを「グループの良心」は選択したのです。このように、自由裁量の決定権の真髄を自分たちが選んだサービスリーダーを信頼し、「特権」としてお任せしてほしいと思っています。そうでなかつたら、自分の良心に従って行動ができない「ロボット。」ただの使い走りすぎないサービスリーダーの「常任理事会」になってしまうような気がしてならないのです。現状のサービスリーダーが物足りなければ、貴方自身が「よきサービスリーダー」になって、模範を示せばよいのだともAAの経験は教えています。

「常任理事会はなぜクローズドか？」というテーマからずいぶんとかげ離れた内容になってしまいましたが、この単純なテーマからAAの原理について、いろいろなことが分ち合い

ると思います。どうか、ご意見をお待ちしています。

最後に、これからの日本のAAは、第三レガシーを実行する時がきたように感じています。ぜひ、今回の分ち合いで、第三のレガシーである「サービス」の指針が書かれている「12の概念」のワークショップが全国の地域で花開くことを願って、おしまいにしたいと思います。

ワールド・サービス・ミーティング評議員：今井 M

(各地域レベルで企画予定などがあればお知らせください)

サービスの分ち合い

ワールドサービスミーティング(WSM) アジア・オセアニアサービスミーティング(AOSM) 通訳の役割りを担っていただいているアメリカのダグさんが昨年秋に今年から2年の任期でアメリカ・カナダ評議会北太平洋沿岸地域の評議員として選出された。今年4月の終わりから5月の始めにかけて開催された第53回アメリカ・カナダ評議会での素晴らしい経験を分ち合ってもらおうと、彼が地域でする報告を聞かせていただいた。ご了解をいただいてその一部を翻訳したので、ご紹介したい。彼が初めて参加した評議会を感じたものが少しでも参考になっていただければ幸いである。彼自身が最後にまとめて書かれた部分はAAの根幹をよく表していると思い、日本のコミュニケーションルートがさらに活性化されるための参考になればと。

J S O 野崎

第53回評議会報告(一部)

エリア06 CNCA(カリフォルニア北海岸地域)

パネル53(第53回及び54回アメリカ・カナダ評議会の評議員)

ダグ(Doug) G

午前4月26日(土曜日)

「1728ミーティング」が4時から始まった。これはノン・アルコール(A類)常任理事のために開催されるもので、「1728」とは、 $12 \times 12 \times 12 = 1728$ のこと。A類常任理事向けの教育プログラムというか、ステップと伝統と概念をよく理解していただくことが目的だ。今回のテーマは「ステップ1」。アルコールがノンアルコールにステップ1のことを一所懸命説明しようとしている姿はとても感動的だ。A類も熱心に耳を傾けている。評議員のベス・Dが、何が起こって「神様が私をAAにつなげてくれ、そしてAAが私を神様につなげてくれた」かをシェアした。一方、なぜA類の人はAAのサービスに関心を持ったのかという質問に対し、A類常任理事のボブ・ミラーは答えた。「みなさんは人のいのちを救うという役割に携わっています。だから私たちもその一員に加わりたかったのです」

(他の評議員との会話の中で・・・)

ある地域のジョン・Eと簡単な食事を済ませ、評議会のあと私たちを待ちうけている大変な課題についてお互いに話し合った。つまりそれぞれの地域に戻ってから、グループに対して評議会報告をどうやって行うかということだ。彼の地域のグループ数は150。CNCA(私が代表する地域)は1700以上。でも地域の規模としてはほぼ同じだ。彼の地域のグループは、報告内容が多すぎるといった反応を示すとのこと。CNCAではまだまだ不十分だと言われる。

評議員だけの第1回目のクローズド会議が7時から開かれた。この会議にはいろいろな目的があるが、今回は前期評議員のためのオリエンテーションだ。ここで教えられたのは、進め方、エチケット(礼儀)と委員会で話されたことの守秘義務、勧告文書の言い回し/語句の使い方、お互いの信頼感、

開催期間中仲間の愛を感じてみることに、自分自身の心と経験によく耳を傾けること、祈りを忘れないこと。また、評議会の各委員会から出される勧告はAAの方針に関するものだけであるため、その文書をどういう語句で表現するかは大変重要であることが指摘された。

はじめて地域集会に参加したときも同じような気持ちにさせられた。それは、この一週間、この会場に集まっても、誰かの金儲けになるわけでも、誰かが話題の人になれるわけでもない。それでも全員が犠牲をいとわず、みんな自分を捧げている。今回もその思いを強くした。「パネル52」では、開催期間中のできごとをメモに書きとめ、日記に残しておくよう奨励している。この報告書をまとめるにあたって、それはかけがえのない大切な資料となった。私たち太平洋地域の評議員の場合、特に幸運なのは、3月に開かれるPR A A S A (太平洋地域サービス集会)ですでにオリエンテーションを受けていることだ。この会議は平安の祈りで閉会になった。
4月27日(日曜日)

地方ごとの昼食会後、PM1:30より評議会が過酷なスケジュールの中で開催された。

【今回参加した評議員の統計】

平均年齢: 52歳(最年長 72歳、最年少 33歳)

平均ソプラエティ年数: 18年(最長 33年、最少 9年)

平均サービス経験年数: 14.9年(最長 31年、最少 7年)

4月28日(月曜日)

午前8時から分科会(文書委員会)の打ち合わせ

午後は常任理事会、WS社、GV社の報告、夕食後にはワールドサービスミーティングの報告が行なわれた。

4月29日(火曜日)

ホットドッグで簡単な昼食を済ませ、午後は3人によるスポンサーシップについての感動的なプレゼンテーションに耳を傾けた。そのうちの一人はジョージ・バリエント博士だ。博士は、治療分野での長期にわたる経験を買われ、A類常任理事としてサービスに関わって欲しいと12番目のステップを受けるに至った経験をシェアした。博士の長い臨床経験は1967年にさかのぼる。その年、メンバーに連れられてオープンのAAミーティングに参加した博士は、はじめてそこで希望を見た。それまで博士が知っていた酔っ払いは、死んでいるか、吐いているかのどちらかだったのだ。私たちにはまだまだ医師や医療関係者とともにやるべきことがたくさんある。その後、パシフィックリージョンの評議員がそれぞれ2分ずつ、地域ハイライトを行ったが、だれも時間超過警告の赤ランプの点滅を受けずに無事終了となった。

4月30日(水曜日)

ついにこの日の朝の7時半、セレンティグループのミーティングに参加できた。このグループは1年にたった5回しかミーティングを行わない。つまり、評議会開催中の月曜から金曜までの5回だけだ。今ごろになってやっと、評議会に参加しているのだという実感がひしひしと押し寄せてきた。睡眠不足も実感している。睡眠不足だから評議会に参加しているんだと実感できたのかも。回りのものすべてに心から愛が感じられるようになってきた。

5月1日(木曜日)

毎朝食事をする「ステージドア」でこの日も朝食を済ませ、7時半に始まるセレンティグループのミーティングに急ぐ。火曜日に地元でミーティングをやっている聖・マラキー教会グループの仲間が、ミーティングに参加してくれた評議員たちにお礼が言いたくて、とやってきていた。そのなかの

一人、6ヶ月のソプラエティのダニエルさんが、ミーティング場にぼくたちがかけつけたとき、「まるで何かが起こって時間がワープしたみたいだった」と言った。ぼくたちが今こうして手にしているものに彼女は心動かされたみたいだ。未来の代議員になってくれるかな? 午前9時、AAの新刊書“De las tinieblas, hacia la luz”(闇から光のなかへ)を手にし、感激した。これは英語版ビッグブック第四版「個人の物語」のスペイン語翻訳版だ。そのあと、「原理」というテーマで短いプレゼンテーションが二人によって行われ、9時半からは、各委員会から出された勧告案に耳を傾けた。・・・こうして5月3日(土曜日)に任期を終える常任理事(二人のA類と四人のB類)がそれぞれに素晴らしいお別れの挨拶をして、過酷なスケジュールが終わったようである。報告書が待ち遠しい。

以下はダグの報告会でのまとめ/補足部分である
ビルは1971年に亡くなったが、ビルのいない評議会がはじめて開催されようとした時(みなとても不安が大きかったと思う)、ジャック・ノリス博士は評議員に向けて次のような話をした。

「素晴らしいスポンサーであり、思慮深いオールドタイマーであったビルは、私たちがビルを手放す心の準備がまだ整わないうちに、私たちを手放す決意を固めました。それはビルが私たちの幸せを最大限に望んだためであることはもちろんですが、それだけではありません。AAはビルを当てにせず、やっていくべきであるし、ビルなしでもちゃんとやっていけるのだと心から信じていたからです。ビルの信頼はそれほど深く不変のものでした。さらにまた、AAの知恵はグループの良心のなかに見出されるものであること、それは教会の地階に集まるグループから生まれるものであって、教会の説教壇から言い渡されるものではないこと、そしてグループから評議員、評議会機構へという方向に向かうものであり、その逆方向に進むものではないことも確信していました。

ビルはさらに、ひとりの意見だけを伺うのではなく、多数の意見に耳を傾けるべきことも認識していました。そして実際にそれだけ多数の人たちに耳を傾け、雑音や混乱の中からグループの良心を見極めることができたのは、ビルに備わった才能だったと言えます。耳を傾けた上で、ビルがすべての意見をまとめると、対立の緊張感がふと消え、ビルの答えが正しいことにだれもが気づかされるのです。私にとってビルの死が意味すること、それは、私たち全員が、評議員も、常任理事も、GSOスタッフも、みなさん全員が、これまでやってきた以上に、もっといいいに耳を傾けなければならないということです。そうやってグループの良心に基づいた意見が判断できるようになるのです。ビルのビジョンは次のようなものでした。そのビジョンの実現を目にするためにビルは生きたのだと言えます。それは、アルコホーリクス・アノニマスのなかではどの人も意見が言えるというコミュニケーションルート(意思疎通が図れる道筋)を築き上げること、つまり、個人の意見がグループを通過し、そこから評議員や常任理事へと達するルートです。だからこそAAはつねにここに存在し続けることができ、まさにこの瞬間、酔っ払って暗闇のなかで苦しみもがきながら助けの手を必死に求めている誰かに、AAの愛の手を届けることができるのです」

ビルに捧げられたこの言葉に感動せずにはいられません。同時に思い出すのは、ビルとドクター・ボブが最後に会った

ときのドクター・ボブの言葉です。「ビル、私たちはほんとうにすばらしいものを手にできたのではないか。混乱におとし入れるのはよそう。簡単にしようではないか(Let's keep it simple!)」

さあ、ここからがみなさんの役割です。この報告によって手にしたものをグループに持ち帰り、コミュニケーションルート(意思疎通が図れる道筋)を開いて、グループがもっと多くの情報を得られるようにし、その上でグループの良心を求めていくというひとつの輪を築き上げてください。そうすれば来年はもっとよい方向が見出せるでしょう。8月には英語版とスペイン語版の評議会報告書が完成します。そのときにはぜひよく読んでください。そしてグループのなかでよく分かち合いをしてください。特に強調していただきたいのは、グループが評議会と関わりやつながりを持つことが、AA全体の一体性にとってどれほど重大な意味をもつかということです。私たちのいのちはAA全体の一体性にかかっているのですから……。

ありがとうございました。ダグ・G

《03年上半期報告・常任理事会 2003/08》

常任理事会広報委員会

1. 広報誌関係

「AAニュースレター」は予定どおり98~100号を発行しました。なお100号は記念号として増ページにしました。「こちらAA」(専門家の皆様へのニュースレター)は今回発行の12号よりA4版にしました。これはホームページからのダウンロード、プリントアウトを容易にするための措置です。また、13号よりJSOから専門家の皆様へ直接の発送を原則として取りやめることが評議会で決定しています。地域で必要な部数を取りまとめていただくようお願い申し上げます。必要な部数だけを印刷する方針です。

2. 広報資料の作成

昨年、滋賀で行われた「広報&病院施設フォーラム報告書」を作成いたしました。

3. マスメディア関係

「アノニミティー・レター」と「マスメディア対応ガイドライン」は来年度評議会に提出できるよう広報委員会で作成中です。

4. ホームページ関係

各COへのリンクは現在行っていませんが、来年度評議会で従前の評議会決定を変更しリンクをする方向で考えています。この件についてご意見がありましたらご連絡ください。ホームページでのミーティング場案内についてはスキャナーを導入したことにより、できうる限り最新の情報を掲載することが可能になりました。

5. イベント関係

第2回広報&病院施設フォーラムを9月20日栃木県宇都宮市(栃木県青年会館コンセール大ホール)で開催いたします。詳細は実行委員会からの報告等をご覧ください。第3回と第4回の広報&病院施設フォーラムの開催地の受付を行っております。詳細は各グループ宛に先日送付いたしました開催手続きについての文書をご覧ください。以上

出版局報告

1. 『ビルはこう思う』関連・・・7月29日に印刷製本された『ビルはこう思う』3,000部がJSOへ納品されました/頒布価格は1冊1,500円と決定されました。

2. 『ようこそAAへ』・・・7月末までに出版局へ届いたパイロット版への文書による意見は計4件になりました。今後この意見を慎重に吟味し、評議会承認出版物として発行できるよう検討を開始します。10月発行を目標にします。

3. パンフ・・・『ある女性アルコールクへの手紙』の再版(一部訂正)、リーフ『AAの簡単な紹介』の新規出版の入稿原稿を作成しました。近日、原稿チェックを関係者にお願ひします。また、評議会で勧告された「ブルーカード」の原稿も近日チェックしていただきます。

出版局のEメールアドレスの変更・・・先月もお伝えしましたが出版局のEメールアドレスが変更になりました。

新アドレス aapub@dol.hi-ho.ne.jp

常任理事会企画・議事・JSO委員会

1. 第4回AA日本サービスフォーラムの開催

メンバーの皆さまにはお知らせが届いていると思います。来る10月3、4、5日にわって九州、福岡市(アクシオン福岡)にて開催いたします。どうぞご参加ください。

2. NPO法人化の小委員会より

評議会勧告を受けて定款等の見直し修正を進め、東京都と予備折衝を行いました。手順、手筈を整えて9月の常任理事会を経て申請を行なう段取りができました。

3. 評議会憲章草案について

評議会勧告を受け、立ち上げた評議会憲章作成小委員会からの意見聴取行なわれ、これより草案の作成が進められる。

4. B類常任理事選出選挙が行なわれ、以下の新しい(2004年~2007年)常任理事が選ばれました。

東日本圏選出常任理事 : 原田・Sさん
全体サービス選出常任理事 : 森田・Yさん
全体サービス選出常任理事 : 荒井・Mさん

国際協力委員会

2003/AOSM(アジア・オセアニア・サービス・ミーティング)が、三つの遺産(回復/一体性/サービス)のテーマで開催されました。今回のハイライトは、日本がスポンサーシップをとったモンゴルから2名の評議員が、オーストラリアがスポンサーシップをとった中国から2名の評議員が参加したことです。基調スピーチは、わが国の「野村評議員」が、日本AAの歩みを話しました。また、今回のミーティングで、日本がスポンサーシップをとる国が、「韓国、モンゴル、中国」に決定しました。

次回のホスト国は、オーストラリアに決定。次回の議長選出は、第三レガシー方式で行い、帽子により決定するという霊的体験となりました。時間が許せば、報告会を要請してください。

国際協力献金は¥564,785(7月末中間報告)が寄せられました。委員会で十分に検討して有効に活用させていただきませう。ご協力ありがとうございました。(献金は通年で受け付けております)

AA日本ニュースレターNo. 101

編集・発行: AA日本ゼネラルサービスオフィス(JSO) 〒171-0014東京都豊島区池袋4-17-10土屋ビル4F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ: <http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/>